



Suzuka University
of Medical Science

鈴鹿医療科学大学
〒510-0293 鈴鹿市岸岡町1001番地 1
TEL. 059-383-8991
<https://www.suzuka-u.ac.jp/>

No.
132

2025.10.20



白子キャンパスにて
開催します！！

「第35回 碧鈴祭(大学祭)」を開催します！

大学祭実行委員会

今年度の碧鈴祭テーマは『響け、碧（あお）のチカラ～Step into the Future～』です。

あなたは、どんな未来への一步を踏み出したいですか？不確実で変化が早いこの時代、漫然と将来に不安を抱いている方もいるかもしれません。そんな時代だからこそ、自分の中の変わらない想いや未来への希望を大切にしたいと思います。「碧」は、鈴鹿医療科学大学を象徴する色で、「やさしさ」「誠実さ」「希望」を表し、「チカラ」は、学生一人一人が培ってきた想いや学び、「響け」には、その想いが来場者や地域に広がってほしいという願いを込めています。そして、「Step into the Future」。この大学祭が、皆さんの未来への一步となれば幸いです。

現在は碧鈴祭の開催に向け、先輩方が築き上げてきた伝統を守りつつ、来場者の方に、より一層楽しんでもらえるように日々準備に励んでいます。

当日は、本学学生・教職員の他、高校生や地域の皆さまをはじめとした学外の方にも本学の教育・研究の内容を知っていただけるような多彩なプログラムをご用意していますので、ご家族・ご友人等お誘い合わせのうえ是非ご来場ください。

◇碧鈴祭

<開催日時> 令和7年11月8日(土) 10:00～17:00 / 11月9日(日) 10:00～16:00

<開催場所> 白子キャンパス

<イベント内容>

- ・8日(土)【講堂】音楽LIVE(出演:Maki/入場無料)
- ・9日(日)【講堂】お笑いLIVE(出演:ラバーガール・9番街レトロ/入場無料)
キャラクターショー(出演:クロミ・ザ・ステージ!/入場無料)
- ・両日 学科発表/クラブサークル発表/模擬店/学生企画

※詳細は本学のホームページをご覧ください。

※開催方法及び実施内容・スケジュール等が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

※キャンパス内及び会場周辺での徹夜等、周辺施設や住民の方の迷惑となる行為は固くお断りします。

<学生課>



学生参画型「教育改革委員会及びFD推進委員会」を開催

学長 豊田 長康・副学長(教務・教育改革担当) 堀 浩樹・FD推進委員長 田口 博明

2018年度から開催している学生参画型の「教育改革委員会及びFD推進委員会」を、7月31日(木)に開催しました。学長をはじめ教育改善に関わる教職員で構成される両委員会に、教育改善委員として任命された学生13名が参画しました。以下の議題について活発な意見があがり、具体的な教育改善に関する方策等について議論ができました。

1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結びつけるかについて
3. 遠隔授業(Zoom)およびe-learning(learningBOXなど)について
4. 教育に関する改善点について

学生教育改善委員からの意見に対し、授業改善に組織的に取り組む必要性、learningBOX、Zoomによる学修支援の活用方法、授業評価の実施方法など、多岐にわたって意見交換し、重要な気づきにつながる委員会となりました。

今回の意見を参考に、カリキュラムの内容・学修方法・学修支援、そして学修成果に関する改善を検討することとし、今後も学生が主体的に改革・改善にかかわる仕組みを取り入れていきたいと思っています。今回参画された学生教育改善委員の皆さんにとっても、この機会を今後活かしてほしいと思います。



慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)体験型合同ワークショップを開催

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 荒井 信行



8月19日(火)~21日(木)の3日間、三重大学医学部医学科、看護学科と合同で実施する「慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)」を開催しました。この集中講義は2年生が対象で、1年生の「慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)」で学修した痛みに関する知識をもとに、大学や専攻を越えて学生同士が協力し、体験型ワークショップを通して慢性疼痛に対する解決のアプローチを探るものです。

鍼灸やアロマセラピーなどの各種体験では、各担当教員の工夫を凝らしたブースにおいて、楽しみながら貴重な医療体験をすることができました。各専門職からの講義や理学療法のストレッチ、また事例検討に向けた積み上げ型のグループワークを行いました。グループワークでは教員がサブファシリテーターを務め、進行のサポートだけでなく教員もグループメンバーの一員として議論に加わるなど、アットホームな雰囲気での進みました。

最終日には、痛み悩む患者さんとその家族の対応について、ロールプレイを通してグループごとに対処策を導き出す事例検討が行われました。各グループメンバーが現在専攻している医療職に扮し、模擬患者と家族の悩みや訴え、病状、心理状態から解決策を懇切かつ臨機応変に演じていました。

毎年、受講した学生からは満足度の高い感想が寄せられています。多角的な視点を養い、仲間とのつながりを広げたいと考えている熱意ある1年生の皆さん、ぜひ来年度の参加をお待ちしています。

伊賀FCくノ一三重の試合でのブース出展

8月31日(日)三重交通Gスポーツの杜鈴鹿にて、「2025 プレナスなでしこリーグ1部 第16節 伊賀FCくノ一三重vs朝日インテック・ラブリッジ名古屋戦」が開催され、本学がブース出展を行いました。

本学と伊賀FCくノ一三重は、今年7月に包括連携に関する協定を締結しました。地域住民の健康意識の向上や、学生の実践的な学びの場を創出し、将来の医療・スポーツ分野を担う人材育成、クラブの競技力向上をめざした協働を進めていきます。今回のブース出展は、本協定に基づく最初の取り組みとなりました。

当日は猛暑にも関わらず、本学ブースへ多くのファンや地域の皆さまに足を運んでいただきました。ブースでは各学科より医療や健康・スポーツに関する多種多様な体験メニューを提供し、大変好評をいただきました。今後も共に連携し、スポーツと健康の両面からお力になれるよう努めてまいります。

【放射線技術科学科】超音波踵骨測定装置による骨密度測定 【医療栄養学科】スポーツ栄養相談および資料配布
【リハビリテーション学科理学療法専攻】AIマーカー・レス3D動作解析によるスプリントフォームの分析とエクササイズ紹介、筋力・柔軟性・バランスなどのフィジカルチェック
【鍼灸サイエンス学科】トレーナー体験、鍼灸体験、東洋医学に基づく健康相談

＜企画広報課＞



受賞のご報告

看護学科教員「優秀論文賞」を受賞

看護学部長 倉田 節子

看護学部看護学科在宅看護学 丸山幸恵准教授の論文「訪問介護員の就労継続意向と専門職アイデンティティおよび訪問看護師との連携の関連」が、第7回日本在宅医療連合学会大会において優秀論文賞を受賞しました。本学会は、在宅療養者の尊厳を守り、本人・家族のQOL向上と安心して暮らせる地域づくりへの貢献、さらには「生活」や「いのち」を支えるための学問としての「在宅医学」の創造・普及を目的として設立された学会であり、医師、看護師をはじめ在宅医療に関わる様々な専門職が活躍しています。

介護サービスとして需要の高い訪問介護は、人材不足が深刻化し、訪問介護員が意欲的に就業できるようなサポート体制の検討が必要です。在宅チーム連携の在り方について調査・分析した結果から、訪問介護員が認識する訪問看護師との関係構築からケア統一への連携形成過程を辿る連携行動は、訪問介護員の自己成長感や就業継続意向に関連していることが明らかになり、在宅サービス提供者が安心してケア提供できる環境となるように互いに議論できる関係性が重要であることが示唆されました。

この受賞を励みに丸山准教授の今後の研究がさらに発展することを期待し、看護学科教員一同お祝い申し上げます。



看護学科教員「奨励賞」を受賞

看護学部長 倉田 節子

看護学部看護学科公衆衛生看護学 宮田瑠里子助教の論文「喫煙者が加熱式タバコを『タバコを吸い続けるための逃げ道』とするプロセス」が、日本看護研究学会において2024年度奨励賞を受賞しました。本学会の目的は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究および進歩発展に寄与することであり、学会事業の1つである奨励賞の対象に宮田助教の論文が選ばれました。

本研究は、近年、使用者が増加している加熱式タバコに着目し、紙巻きタバコから移行する過程での喫煙行動の変化を調査しました。従来の紙巻きタバコにおいては、臭いや周囲からの厳しい態度が禁煙を促す要因となっていました。加熱式タバコでは「臭いが少ない」「周囲に受け入れられやすい」などの理由から、喫煙者がタバコにのめりこむようになることや、そのプロセスとはどのようなものかを明らかにしました。本研究の特徴は、喫煙者が加熱式タバコを選択する理由として「健康リスクの低減」というよりも、対人関係や社会的要因に強く影響されていることを実証した点であり、今後の喫煙者への指導・支援への有用な示唆が得られました。

この受賞を励みに宮田助教の今後の研究がさらに発展することを期待し、看護学科教員一同お祝い申し上げます。



薬学科教員 学術奨励「安江賞」を受賞

副学長(大学院・研究担当) 鈴木 宏治

8月31日(日)第49回東海皮膚科漢方研究会において、薬学科の佐藤英介教授、平本恵一准教授、堤智斉准教授、森田明広准教授、同学科の稲場一晟学生らによる研究成果が、東海地区の皮膚科領域における漢方研究の発展に寄与した将来性ある優れた研究に対して贈られる学術奨励「安江賞」を受賞しました。

佐藤教授らは、紫外線B波(UV-B)による皮膚傷害で、免疫細胞の一種である白血球の好中球が放出する「好中球細胞外トラップ(Neutrophil Extracellular Traps: NETs)」が関与することを世界で初めて明らかにしました。さらに、漢方方剤である「補中益気湯」が、NETsの形成を阻害して皮膚の炎症を著しく抑制することも明らかにしました。この発見は、紫外線による皮膚ダメージに対する新しい予防・治療戦略の創出につながる重要な知見であると考えられます。本研究成果は、国際学術誌 International Journal of Molecular Sciences に掲載されました(QRコード参照)。



佐藤教授の受賞挨拶：この度は、歴史ある東海皮膚科漢方研究会において、栄誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。本研究を共に推進した平本准教授、堤准教授、森田准教授、そして研究に真摯に取り組んでくれた稲場君をはじめ、ご支援いただいた関係各位に心より御礼申し上げます。本研究が、今後の皮膚科学と漢方医学の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

今年も大好評「夏休みこども薬剤師体験」

薬学部 薬学科 教授 定金 豊

8月7日(木)白子キャンパスにて、夏休み期間を利用して「夏休みこども薬剤師体験」を開催しました。三重県の病院や薬局では、深刻な薬剤師不足が課題となっています。本体験会は、薬剤師という職業に関心を持つきっかけを提供し、将来、県内で薬剤師として活躍する人材の育成につなげることを目的として、昨年度から実施しています。対象は小学校4～6年生とし、今年度も多数の応募をいただいたため、抽選により参加者を決定しました。

参加した児童は、本学薬学科の教員と5年生8名の指導のもと、学内にある本格的な調剤室を使用して薬剤師の仕事を体験しました。調剤体験では、粉薬を分包機で一包ずつに調剤し、自作の薬袋に詰めたうえで、白衣を着て投薬カウンターで薬を手渡す体験を実施しました。さらに水剤調製体験では、オレンジやラベンダーの精油をアルコールと水で薄めてアロマスプレーを作製し、医療現場での活用について学習しました。完成したアロマスプレーは持ち帰り、学びの記念としました。参加者の中には「お父さんの枕に使いたい」というユニークな声も聞かれ、会場が和やかな雰囲気となりました。



体験会終了後に実施したアンケートでは、参加者の95%以上が「薬剤師の仕事に興味を持った」と回答し、「将来は薬剤師として働きたい」との意欲的な声も多く寄せられました。保護者からも「学生と直接話すことができ、薬剤師を目指す具体的なイメージを持つことができた」との評価をいただきました。本体験会の様子はテレビや新聞でも紹介され、薬学科の広報にも貢献しました。

「夏休み！臨床工学×サイエンスフェア」を開催

医用工学部 臨床工学科 教授 三浦 英和

8月23日(土)千代崎キャンパスにて、市民公開講座「夏休み！臨床工学×サイエンスフェア」を開催しました。本学科ではこれまで春の市民公開講座や大学祭を通じて地域交流を進めてきましたが、夏休みに小中学生と保護者を対象とした体験型イベントを企画するのは今回が初めてです。

定員を超える多数の申し込みがあり、厳正な抽選のうえ約100名の児童・保護者の参加を得て、前半・後半の二部制で実施しました。レゴブロックを用いたプログラミング、電子工作、紫外線を利用したレジンアクセサリー作りを通して「光とものづくりの不思議」を学ぶほか、ブラックライトによる「手洗いの科学」体験で、洗い残しの汚れを“見える化”し、感染予防の重要性を楽しく学びました。臨床工学技士の重要な業務である人工透析についても実験を通して学びました。参加者からは「科学が身近になった」「医療の仕事に興味を持った」といった感想が寄せられ、親子で熱心に取り組む姿が印象的でした。



本学科では、こうした体験を通じて子どもたちに医療と科学の魅力を伝えるとともに、地域に開かれた大学として今後も継続的な企画を展開してまいります。

理論・モデルを活用できる実践者となることを目指す 授業科目「理論救急救命学」

保健衛生学部 救急救命学科 准教授 久保田 千景

1年生から3年生前期までに救急救命学科の学生は、学科看護師の教員により救急社会心理学関連の100種類以上にもおよぶ「理論・モデル」を学んできました。そして冬期からは、病院実習・消防実習が始まります。

この間をつなぐ秋期授業科目「理論救急救命学」では、病院勤務の救急救命士、消防勤務の救急救命士の役割について、「Peer Learning」・「Team-Based Learning」により、救急救命士法の下、地域包括ケアシステムにおける救急救命士の役割開発を行います。初日は、学生全体でbrainstormingを行いました！

学生同士で作った救急救命士の役割を基に、病院実習・消防実習に臨んでいただきたいと思います！



市民公開講座を開催

看護学科「慢性的な痛みへの対応方法：薬に頼らない痛みのコントロール方法」



7月26日(土)白子キャンパスにて、「慢性的な痛みへの対応方法：薬に頼らない痛みのコントロール方法」をテーマに、看護学科主催の市民公開講座を開催しました。公開講座は三部構成とし、老年看護学の田中和奈教授と精神看護学の萩典子教授による講義や体験演習を行いました。第一部では、慢性的な痛みへの対応方法に関する講義を行い、痛みの記録日誌を実際に参加者の方に記載してもらい、自身の痛みの状況を可視化することの重要性について学んでいただきました。第二部では、漸進的筋弛緩法の講義と演習を行い、第三部はアロマセラピー

の活用方法についての体験演習を行いました。

公開講座には、10代から90代までの鈴鹿市民の方59名にご参加いただき、講座後のアンケートでは、「講義、体を動かす、アロマ体験と、とても変化に富んで楽しかった」、「薬に頼らない疼痛コントロール方法が参考になった」、「今回学んだ内容を今後活用していきたい」などのご意見をいただきました。また、「アロマセラピーや筋弛緩法を体験して、痛みが緩和したのを実感しました」という感想を複数の参加者の方からいただき、痛みの緩和に効果を感じていただけたことを担当教員一同とても嬉しく感じました。

＜看護学部＞

医療福祉学科「自然農法ラーニングプログラム」

保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 合田 盛人

8月2日(土)千代崎キャンパスにて、医療福祉学科主催による市民公開講座「自然農法ラーニングプログラム」を開催しました。講師には、20年にわたりイギリスイエイツベリー園場で責任者として自然農法を実践研究され、世界最大の有機農業イベント、オックスフォード・リアル・ファーマー・カンファレンスで4年連続講演者として発表されている今橋伸也先生をお招きしました。先生は登録者数5万2千人のYouTuberでもあることから、当日は猛暑にもかかわらず、鈴鹿市民の皆さまだけでなく、愛知、滋賀、京都、大阪、和歌山など県外からも合計173名の方にご参加いただきました。

講座では、今橋先生から、自然農法の根本理念、土や堆肥とは何か、連作の可否などについて講義いただきました。自然農法の茄子と慣行農法の茄子を使ったエネルギーテストで、自然農法の茄子のエネルギーの強さに会場から感嘆の声が沸き起こりました。プログラムの後半では、交流の場を持ち参加者間で情報交換が盛んに行われました。また、今橋先生から「青首大根自家採種5年目の種をご希望の方に配布します」とアナウンスされると、150袋が瞬く間に無くなり希望者全員に行き渡らない状況で、大盛況の講座となりました。



作業療法学専攻「お元気チェック講座」

保健衛生学部 リハビリテーション学科 准教授 藤井 啓介

リハビリテーション学科作業療法学専攻では、今年度より学官連携事業の一環として、地域住民を対象とした健康チェック事業「お元気チェック講座」を展開しています。

その記念すべき第1回目の取り組みを、8月に玉垣公民館にて実施しました。講座は全2回構成で、第1回目では体力測定やアンケート調査を通じて参加者の健康状態を評価しました。第2回目では評価結果のフィードバックと健康講話を行いました。

第1回目の体力測定では、9月から学外実習を控えた作業療法学専攻3年生11名が参加し、地域の方々に測定を実施するとともに、積極的にコミュニケーションを図る姿が印象的でした。参加者からは「楽しかった!」「実習がんばってね!」といった声も聞かれ、満足度の高い講座となりました。

第2回目では、本専攻の教員が健康に関する講話を行い、参加者の皆さまは熱心に耳を傾けてくださいました。

今後も、学生が学びのなかで地域とのつながりを実感できるような活動を継続的に実施してまいります。



第1回 三重県薬事工業会・鈴鹿医療科学大学 研究交流会及び企業展を開催

副学長(大学院・研究担当)・社会連携研究センター長 鈴木 宏治

8月30日(土)白子キャンパスにて、「第1回 三重県薬事工業会・鈴鹿医療科学大学 研究交流会及び企業展」が開催されました。

この研究交流会と企業展は、令和6年5月に締結された「三重県薬事工業会と本学の連携協力に関する包括協定」における連携・協力事項(共同研究・受託研究等の推進、研究者・技術者の人的交流と人材育成など)に基づいて実施されたものです。

午前中の研究交流会では、三重県薬事工業会会長の松浦信男 万協製薬株式会社社長による三重県薬事工業会の活動内容の紹介と本学薬学部 佐藤英介教授による次年度開設予定の「薬学部 薬科学科」の概要と研究内容を紹介いただきました。研究交流会には、本学教職員、企業関係者、学生など約70名が参加し、活発な意見交換が行われました。

午後は、三重県薬事工業会加盟企業7社による企業展が開催されました。この企業展には、薬学部学生、同日開催されたオープンキャンパスに来場した高校生と保護者など計85名が参加しました。参加者は各企業のブースで担当者から直接説明を受け、企業の特徴や事業内容、今後のキャリア形成などについての理解を深める貴重な機会となりました。



三重県薬事工業会加盟企業7社による企業展示会の様子

第18回 SUMS-NITS 医工連携研究会を開催

副学長(大学院・研究担当)・社会連携研究センター長 鈴木 宏治

9月9日(火)白子キャンパスにて、「第18回SUMS-NITS医工連携研究会」が開催されました。本研究会は、本学(SUMS)と鈴鹿工業高等専門学校(NITS)の研究者及び民間企業等の研究者が連携して医療に係る重要な課題について、自由闊達に意見交換を行い課題解決の道を模索することを目的として開催するものです。

当日は、SUMS 豊田長康学長から主催校を代表した挨拶に続いて、下記の講演がありました。

■ 講演1 「PEEK樹脂の機械的性質および転がり疲労強度測定と応用事例について」

松枝剛広准教授(NITS・機械工学科)は、高機能性樹脂「PEEK」について、その強度と安定性を実証する研究成果、水中や薬品環境下における転がり疲労強度の測定事例などを紹介し、新たな材料開発や医療への応用に関する展望を述べられました。

■ 講演2 「難治性小児がんに対する光線力学療法の開発と臨床応用」

堀浩樹教授(SUMS・副学長)は、小児がん治療で用いられる光線力学療法(PDT)におけるPDT感受性が低いMYCN(がん遺伝子)増幅神経芽腫に対する5アミノレブリン酸の併用効果に関する研究成果、低中所得国における小児がん診療への応用可能性などを紹介し、光照射装置の開発に関する医工連携研究の展望を述べられました。

両演題に対して活発な質疑応答が行われ、また、今後の医工連携の方向性や共同研究の可能性について意見交換が行われました。その後、NITS 藤本慎司校長による講評があり、盛況のうちに終了しました。



第7回 鍼灸学系大学協議会サマーセミナーを開催

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科長 山本 晃久

鍼灸学系大学協議会(JSACU)は、鍼灸学の教育及び研究に関する諸問題について協議し、その振興に寄与することを目的に2015年に設立されました。その協議の場として、毎年、サマーセミナーが開催されています。本年度は、本学を主幹校として、9月6日(土)・7日(日)白子キャンパスにて開催されました。セミナーには、JSACU 加盟校12校の教員27名が参加されました。

1日目は、「日本の研究力」と題して豊田長康先生(本学学長)、「分野別評価制度の導入で医学教育がどう変わったか」と題して奈良信雄先生(日本医学教育評価機構常任理事、総合評価部会長)の特別講演が行われました。その後、懇親会が行われ、冒頭、高木久代先生(本学副学長)より薬膳料理についてご教授いただき、薬膳料理を堪能しながら親睦を深めることができました。

2日目は、特別委員会による報告会・意見交換会が行われ、その後、「鍼治療効果の開始機構における線維芽細胞の研究」と題して有馬 寧先生(本学東洋医学研究所所長)、「健康食品で命を落とさないために」と題して長村洋一先生(本学客員教授)の教育講演が行われました。加盟校の先生方から、「多くの学びと交流の機会をいただいた」「薬膳料理に大変感動した」との感想をいただき、盛況のうちに閉会しました。



大学院生が日本家族心理学会で発表

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻長 大橋 明

8月9日(土)～11日(月)日本家族心理学会第42回大会が東北大学で開催され、臨床心理学分野に所属する大学院生2名がポスター発表を行いました。

三井駒美さんは、子どもの発達に関する親の知識が養育態度におよぼす影響について検討しました。保護者が養育に関する知識をどのように得るかによって知識に関する自信や正確性が異なること、持っている情報に自信が高く、正確性を感じている保護者では、子どもに対して温かな関わりがなされていることを明らかにしました。

中本百香さんは、障害者きょうだい(障害をもつ兄弟姉妹がいる人)が同胞や保護者の支援行動に至るメカニズムを検討しました。障害者きょうだいは保護者代わりを期待されることに負担を感じても、保護者からの感謝や労いを得て同胞支援の役割が獲得されること、この役割獲得と保護者の負担を認識することが自発的な同胞支援につながっていることを見出しました。

両名の発表には多くの研究者が訪れ、さまざまな質問に対しても誠実に知見を伝えて議論に取り組んでいました。両名は発表内容を発展させて修士論文を執筆する予定ですが、この体験が研究者として生きていく上での糧になることを期待しています。



医療栄養学科の学生と企業が共同開発したお弁当が販売されました

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 吉村 智春

医療栄養学科 管理栄養学専攻4年生の川村美冬さん、倉田華さん、中西歩未さん、野口明日香さん、槇岡ほの香さんとマックスバリュ東海株式会社が共同開発したお弁当「鈴華御膳 亀山みそ焼きうどん彩菜弁当」が、9月20日(土)より、マックスバリュ店舗にて期間限定で販売されました。

販売初日は学生がマックスバリュ鈴鹿住吉店の店頭に立ち、お客様に「三重県のご当地グルメでもある亀山みそ焼きうどんとたくさんの種類の野菜を使用したお弁当で、三重県を多くの人に知っていただきたい」「一人暮らしの社会人の方にも食べていただきたいと思い、食材数が多く手の込んだお弁当に仕上げました」など、お弁当へのこだわりを説明しながら、試食販売を行いました。また、同級生や卒業生も店頭応援にかけつけ、約2時間でお弁当90食を販売しました。

今年は「鈴華御膳」の取り組みが10周年を迎えました。春から試行錯誤して完成させたお弁当ですが、お客様の反応に達成感を得ている学生たちの姿がとても印象的でした。

また、本年度は大学のMaxマート(千代崎キャンパス)にて9月22日(月)～10月10日(金)までの月・水・金に販売しました。ご購入いただいた学生や教職員の皆さまに感謝いたします。



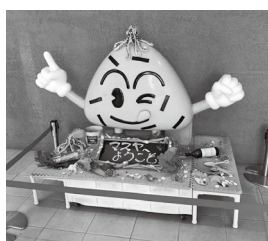
H & Nサークル トレーサビリティを学ぶ企業見学

H & Nサークル・保健衛生学部 医療栄養学科 2年 藤牧 真依

8月29日(金)医療栄養学科の学生を中心として活動しているH & N(Health & Nutrition)サークルが、三重県農作物安全・流通課の職員の方とともに、本年度の大学祭にて展示予定の「米のトレーサビリティ」について学ぶため、IXホールディングス株式会社(旧 株式会社マサグループ)本社を見学しました。

米のトレーサビリティとは「米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律」です。お米や米飯類等の対象品目で問題が起きた際に、流通ルートを迅速に特定するため、取引等の記録を作成・保存すること及び産地情報を取引先や消費者に伝達することを農業者から外食産業の方々まで、幅広く義務付けるものです。見学では、米のトレーサビリティにおける表示方法や対象品目の見分け方について学びました。日常的に手に取る身近な商品が対象となっていることを知り、安全性を守るための重要な仕組みであると実感しました。代表的な商品である「おにぎりせんべい」の梱包作業を見学することもできました。幅広い世代に愛され、一度は口にしたことのある商品の歴史を知ることができ、とても嬉しく思いました。

大学祭では今回学んだ内容を展示する予定です。ぜひ11月8日(土)・9日(日)開催の大学祭にお越しください。

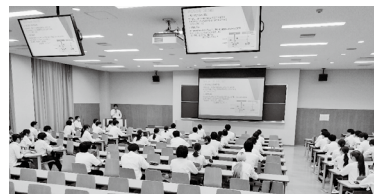


臨床実習報告会を開催

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 鈴木 恵子

放射線技術科学科4年生が2024年11月11日～12月26日および2025年5月12日～6月26日の計68日間の臨床実習を終え、8月4日(月)に本学にて臨床実習報告会を開催し、後日、臨床実習報告会に参加した全学生による投票を行い、優秀発表者13名に表彰を行いました。

3学年合同開催のため、臨床実習報告会では5会場に分かれ、臨床実習で学んだことの中から、特に興味を持ったことや印象に残ったこと、2・3年生に向けて将来臨床実習に臨む前に何を準備・勉強しておくべきか、実習中はどのように



臨床実習報告会の様子

行動するか、指導していただく技師の先生方とどのようにコミュニケーションをとればいいのか、実習期間中の過ごし方等、伝えたいことやアドバイスを含めた発表を行ってもらいました。発表した4年生は、臨床実習を通して自分がこれからすべきことや将来についての展望が少しずつ明確になってきているのがうかがえ、国家試験対策や進路を考える上でのモチベーションになっているようでした。2・3年生はメモを取りながら先輩の話を真剣に聞いて情報を収集していました。今後の臨床実習、自身の進路に役立てていただきたいと思います。



優秀発表者の表彰(13名)

総合臨床実習を体験して

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 4年 堀 日向

総合臨床実習において、学内では経験できない貴重な経験をさせていただきました。前期、後期合わせて15週の实習では、いずれの実習でも長期間、患者さんの治療に関わらせていただいたことで、患者さんの経過や回復過程から多くの学びがありました。

実習前は、患者さんの問題点の把握や、セラピストとしてのコミュニケーションを含めた介入の考え方が未熟で苦手に感じていました。しかし、実習指導者の先生から問題点の挙げ方や理学療法評価の再現性の重要性をご指導いただき、問題点の抽出、整理する考え方を身につけることができたと感じています。またコミュニケーションにおいても単に情報を聞く、運動療法を実施するためだけの指示にならないよう患者さんに関わることが必要だと感じました。患者さんがリハビリテーションを前向きに行うためにも、関わり方を考え、コミュニケーションの取り方を意識できるようになりました。

実習の最終日には「俺もがんばるから学生さんもがんばってね。」と声をかけてくださった方もいらっしゃいました。実習期間中、大変だと感じる時もありましたがとても有意義な実習となりました。総合臨床実習で得た経験と患者さんからかけていただいた言葉を忘れず、国家試験合格のためにがんばっていききたいと思います。

診療情報管理士・病院実習を経験して

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 3年 浜崎 光梨

8月12日(火)～18日(月)の5日間、松阪中央総合病院の診療情報管理室にて病院実習を行いました。

今回の実習は、あっという間に時間が過ぎてしまったという感じでした。診療情報管理室と医事課での実習は、大学で学んだことを生かすことができたので、より理解を深められました。

当初はPC作業に終日従事する仕事だと思っていましたが、病棟を回ったり、患者さんと直接会話をすることがあり、想像とは違うこともありました。

私たちが日頃学んでいたレセプト業務以外にも、診療情報資料の管理、病歴データ入力、量的質的点検、がんに関する情報の登録など様々な内容の仕事を体験させていただきました。

病院で働く上での注意点として、患者さんと接触しないよう周囲に気を配って動くこと、患者番号や名前を間違えないことなど、少し気を緩めるだけでインシデントにつながるということも学びました。

チーム医療についての説明やカンファレンス情報、退院時サマリー、がん登録の業務など、普段見聞きできない情報に触れることができて本当に良かったと思います。

自身の今後の大学での学び(資格検定)や就職活動についても、現場の方々からお話を伺うことができ、今回の実習はとても大きな学びとなりました。



本学(臨床検査学科)と大田保健大学校との国際交流を実施

保健衛生学部 臨床検査学科長 米田 操

8月27日(水)・28日(木)の2日間にわたり、本学学生7名、教員4名、助手2名が大田保健大学校(韓国大田市)に訪問して国際交流を実施しました。大田保健大学の教員、国際交流委員との臨床検査検討会、授業、遺伝子・血液・病理・生理・細菌実習室等の見学をしました。授業、実習においてはタブレット使用が大部分で印刷物、ノート等の使用はほとんどありませんでした。授業人数は少なく20名から30名程度でした。教員との臨床検査討論会では、日本と韓国との臨床検査技師制度や現状について討論しました。韓国は医療における国の援助が充実していることを学びました。また、最先端検査機器導入が多くあり驚きました。2日目には国際交流講演会が実施されました。本学教員の吉子教授、鈴木准教授、マイケルス助教、米田が、英語・日本語で講演し、多くの先生方と学生に聴講していただきました。教室では、同時通訳システムがあり、英語・日本語から韓国語に通訳されました。韓国の文化交流体験もさせていただき、お土産もいただきました。本学にも近い将来、来校していただけると幸いです。関係者の先生方に感謝致します。ありがとうございました。



本学教員・学生と大田保健大学の教員

若いて素晴らしい。感動する国際交流。

保健衛生学部 医療栄養学科 教授 村林 新吾

8月6日(水)～12日(火)医療栄養学科の学生と、台湾茶のすべてを实地探索する台湾研修を行いました。台湾は食と烏龍茶の街。以前に何度か訪れたことはありましたが、台湾で一番高い山である阿里山の中腹から台中、台北とお茶の産地を訪問したのは今回が初めてでした。太平洋戦争以前に日本が作った建物や製茶機の多くが残っていて、お茶の作り方だけでなく歴史の勉強にもなりました。静岡茶や伊勢茶についても事前学習を行いました。現地のお茶農家の方々へのお礼に、学生が心を込めて淹れた日本茶を召し上がっていただき、大変喜ばれました。もちろん台湾料理も堪能しました。

また、8月27日(水)・28日(木)には、臨床検査学科の教員や学生と共に、友好協力協定校である韓国の大田保健大学校を訪問しました。空港より高速バスでソウルへ向かい、翌日は、各自で電車の切符を手配して大田市へ移動したのは、まさに青春18切符のようでした。本学教員の英語での講演が、AIで韓国語と日本語に自動通訳され、両国の学生たちは一生懸命授業に臨んでいました。その姿に感動し胸がいっぱいになりました。韓国ではキムチを存分に味わうこともでき、素晴らしい国際交流になりました。

CTY・CNS放送(ケーブルテレビ)番組の撮影が本学で行われました

CTY・CNS放送(ケーブルテレビ)の番組「北勢情報トライフル！」の収録が両キャンパスで行われ、9月1日(月)～15日(月)に放送されました。

「北勢情報トライフル！」は地域の情報番組で、イベント、映画、お店情報などで構成されています。番組内コーナーの「かんたん葉膳であなたも健康に」は、高木久代副学長が学内ヘルシーキッチンスタジオで撮影収録を行い、旬の食材や調理のコツなどを丁寧に説明しています。コーナー最後では本学の情報を発信しています。



9月放送は特別企画として、通常の葉膳コーナーに加え、特別コーナーと番組進行の撮影が学内で行われ、本学学生にもインタビューに協力いただきました。収録場所の6号館など、いろいろな角度から本学を紹介いただきました。

<企画広報課>

学友会主催「テーブルマナー講習会」を開催

学友会執行部・保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻 2年 澤田 彩花



9月28日(日)学友会主催の「テーブルマナー講習会」を開催いたしました。今年は総勢51名の学生が参加しました。

都ホテル四日市の最上階「ラ・メール」を会場に、講師の浅生先生から、洋食を中心としたテーブルマナーについて実践を交えながらご指導いただきました。着席姿勢やカトラリーの扱い方、離席時の所作に加え、和食での焼き魚の食べ方など、幅広い内容を楽しく学ぶことができました。

参加者からは「テーブルマナーについて考えるきっかけになりました」「また機会があれば、参加したいと思います」などの感想をいただき、好評の声が寄せられました。

テーブルマナー講習会は来年度も開催する予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。



よさこい部「颯～FREEDOM～」が「第27回につぼんど真ん中祭り」でU-40大会準大賞を受賞

8月29日(金)～31日(日)の3日間、名古屋市で開催された「第27回につぼんど真ん中祭り」において、本学のよさこい部「颯～FREEDOM(フリーダム)～」がU-40大会(40人未満小編成チーム部門)ファイナルコンテストにて第2位「準大賞」を受賞しました。

颯～FREEDOM～は、本学在学学生を中心にOB・OGもメンバーとして活動しており、今年で結成20周年を迎えます。地元のお祭りはもちろん、大きな大会にも出場して踊りを披露しています。

今回参加した「につぼんど真ん中祭り」は、国内外から200チーム以上・約2万人が集結し、観客動員数は200万人を超える日本有数のお祭りです。颯～FREEDOM～は、2018年にU-40大会大賞を受賞しており、今回の受賞はそれ以来の大きな成果となりました。

メンバー一同、この日に向けて練習に励んできました。当日は記録的な猛暑の中での演舞となりましたが、「わかりやすい格好良さの追求」「楽しむことが大前提」をモットーに、笑顔を絶やさずメンバー全員で楽しむことができました。

今後も地域の皆さまに愛されるチームを目指して、一層がんばっていきますので、引き続き温かい応援をよろしくお願いいたします。

＜颯～FREEDOM～・学生課＞



弓道部の学生が「令和7年 四日市弓道大会」で優勝



9月14日(日)「令和7年 四日市弓道大会」において、弓道部の葛西悠さん(医療福祉学科 医療福祉学専攻4年)が一般(3段以下)の部で優勝しました。

弓道部は、現在34名が所属しており、授業や実習が忙しい中でも、毎週2回鈴鹿市武道館で練習に励んでおり、週末には地域の大会をはじめ、東海大会・全国大会などにも積極的に出場しています。

今回、弓道部から4名が出場した「四日市弓道大会＜一般(3段以下)の部＞」には、三重県内から社会人など一般の方も含めて約100名の出場があり、そのような場で、葛西さんは日頃の練習の成果を発揮し、見事優勝となりました。

現在は、地域の大学が競い合う「第69回東海学生弓道秋季リーグ戦」の真っ最中ですが、そちらでも良い結果を残せるように弓道部一同がんばります。皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。

＜弓道部・学生課＞

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー 平山 木綿子

暑い夏が一段落してようやく秋になりました。ホッとします。

秋は過ごしやすいですが、朝晩の気温差が大きく夏の疲れも出やすい季節です。気づかないうちに疲労が蓄積されているかもしれません。暑さや寒さなどの気候は、ストレス反応を引き起こすストレスラーにもなります。ストレス反応は、心理面、身体面、行動面の3つに分けることができます。心理面の反応では、活力の低下・イライラ・不安・抑うつ(気分の落ち込み、興味・関心の低下)などがあります。身体面の反応では、体の痛み・頭痛・肩こり・目の疲れ・動悸・胃痛・食欲低下・便秘や下痢・不眠などさまざまな症状があります。行動面での反応は、ミスや事故の増加、飲酒量や喫煙量の増加などがあります。このようなストレス反応が続いている場合、無理をしている状態かもしれません。日頃の生活を振り返ったり、ストレスとの付き合い方を考えたりするのも良いと思います。症状が続いたり日常生活に影響が出ていたりする場合は、専門家への相談をおすすめします。

学生相談室では心理カウンセラー(臨床心理士・公認心理師)が、良い案と一緒に考えるお手伝いをしています。活用してみてくださいね。

＜参考・引用＞ 厚生労働省ポータルサイト <https://kokoro.mhlw.go.jp/nowhow/nh001/>



おじさんの
独り言

「お月見しなきゃ、運のツキ？」

おじさん、報告しなきゃいけないことがあるんだよね。以前、ここでおじさん家の柚子の話をしたでしょ。10年以上前に苗を植えたのに、まだ実が生らないって。「桃栗3年柿8年、柚子の大バカ18年」苗を植えてから10年以上も実が生らないなんて、柚子は大バカだと。今年の春は少しだけ花が咲いたんだけど、そのあと実が付いてなかったようなので、今年もダメだと諦めてたんだ。ところが先日、とうとう柚子の実を発見してしまったのですよ。柚子の木の裏の奥のほうを覗いたら、1、2、3、な、な、何と12個も生ってるじゃないですか。「感謝感激雨あられ」今年の冬至には、レモン湯じゃなくって、本物の自家製柚子湯に入れるんだ〜。もう柚子を譲ってもらわなくてもいいんだ〜。バンザーイ！バンザーイ！

突然話が変わるけど、10月になったら猛暑から一転して秋らしくなったよね。秋って言ったら、何だろう？ 秋って言ったら、「実りの秋」かな。いや、「名月」もあるしなあ。やっぱり十五夜だね。1年で最も美しく中秋の名月と言われている十五夜の月を鑑賞しながら、収穫に感謝をするんだ。もちろん、団子を食べながらね。

十五夜は必ずしも満月ではないんだ。旧暦では新月(月が見えなくなる)を1日として、15日目の夜を「十五夜」としたんだね。今年の十五夜(旧暦の8月15日)は10月6日だけど満月じゃなかった。1日ずれて翌7日が満月だったんだ。これは、月の公転軌道が楕円

形だから、新月から満月になる日数が最大で15.6日、最小で13.9日と変化するからなんだ。だから、十五夜は満月だったり満月の前後だったりするんだよね。

「中秋の名月、見たかったなあ。もう過ぎちゃったじゃん。もっと早く教えてよ」なんて言ってるのは誰じゃ？ 十五夜のツキを見逃すなんて、アンタの運もツキたかな。ナンチャッテ。

まあそう悲観することもないさ。次の月見でツキを取り戻そ。まだチャンスはあるんだ。11月には「十三夜」があるし「十日夜」という月見もあるんだ。十三夜は、旧暦の9月13日(今年は11月2日)の夜を指し、十五夜に次いで美しい月とされている。十五夜は中国伝来だけど、十三夜は日本独自の風習なんだって。十日夜は旧暦10月10日(今年は11月29日)に、農作業が一段落した収穫感謝の月見なんだとか。

ところで、おじさん、月見について疑問があるんだよね。何かというと、「十五夜は満月か満月に近いから綺麗な月だと愛でたくなるのは分かるけど、十三夜や十日夜は欠けた月なのに、どうして月見の対象になったのか？」っていう疑問なんだ。おじさん、珍しく真剣に考えて思い至ったんだ。『眩いばかりの満月だけが美しいんじゃない。少し欠けている控えめな月も上品で趣があるんだ。これこそ、日本人の美意識「詫び寂び」に通じるんじゃないの』って。

おじさんの結論、月並みかな〜？

女子バスケットボール部が 三重県総合バスケットボール選手権大会で準優勝！

強化指定クラブ「女子バスケットボール部」

6月に開催された「三重県バスケットボール 一般春季大会」の優勝により出場権を得た『三重県総合バスケットボール選手権大会』が、8月30日(土)・31日(日)の2日間、県営サンアリーナ(伊勢市)で開催されました。

本大会はトーナメント方式で行われ、初戦では三重県社会人バスケットボール連盟の女子1部リーグに所属する「ENDLESS」と対戦し、119対19で快勝。続く準決勝戦は、三重県高校総体2位の津商業高校に79対37で勝ち、31日開催の決勝戦へと進みました。

決勝戦は、三重県高校総体優勝校の四日市メリノール学院高校と対戦し、前半を28対45で折り返したものの、後半に点差を広げられ、最終スコア50対78で敗れ、準優勝という結果となりました。

なお、本大会での上位入賞により、11月15日(土)・16日(日)に愛知県一宮市で開催される「皇后杯セカンドラウンド(東海ブロック)」への出場権を獲得しました。

さらに、『東海学生バスケットボール2部リーグ戦』では、9月から約2か月間に渡り1部リーグ昇格を目指して全力で挑みますので、引き続き温かいご声援をよろしくお願いいたします。
＜学生課＞



「白子キャンパス体育館」が完成し、10月1日(水)から運用を開始しました。新体育館は延床面積1,945m²の鉄骨造で、競技場にはバスケットコート2面とシュート練習用ゴールをコート外に6基設置し、館内には女子バスケットボール部専用のトレーニングルームやミーティングルームも整備しています。冷暖房を完備し快適な環境を整えており、強化指定クラブの練習や体育授業など学内活動に活用する予定です。

行事予定

2025年11月～2026年1月

11月1日(土) 補講日
3日(月・祝) 月曜授業日
7日(金) 大学祭準備(休講)
8日(土)～9日(日) 大学祭
10日(月) 大学祭片付け(休講)
19日(水) 学校推薦型選抜(指定校制)
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
20日(木) 学校推薦型選抜(適性検査方式/公募制)
総合型選抜(3期)
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
22日(土) 補講日
29日(土) 秋期追・再試験
12月6日(土) 補講日
13日(土) 学校推薦型選抜(指定校制2期)
総合型選抜(4期)
編入学試験第2回

12月16日(火)・19日(金) 補講日
23日(火)～1月5日(月) 冬季休業(学生)
25日(木)～1月5日(月) 冬期一斉休暇
1月6日(火)～7日(水) 補講日
8日(木)～9日(金)・13日(火)～15日(木)
後期定期試験
16日(金) 大学入学共通テスト準備
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
17日(土)～18日(日) 大学入学共通テスト
千代崎のみ立入禁止
19日(月)～20日(火) 後期定期試験
21日(水)～23日(金) 後期・冬期定期試験と解説
26日(月)～27日(火) 冬期定期試験と解説
29日(木) 一般選抜A日程準備
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
30日(金) 一般選抜A日程・総合型選抜(5期)
千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。